

献呈のことば

仲村政文先生は、昭和三四年三月に九州大学経済学部を卒業後、昭和三九年三月に九州大学大学院経済学研究科博士課程を単位修得後退学され、直ちに九州大学助手経済学部に採用されました。昭和四一年四月に鹿児島大学に赴任され、平成一四年三月に鹿児島大学教員停年規則により退職されるまでの三六年間、鹿児島大学に在籍なさいました。

鹿児島大学在職中、法文学部においては社会政策・社会政策演習等の授業科目を担当され、また鹿児島大学大学院人文社会科学研究所においては産業技術論等の授業科目を担当されることよって、学生の教育研究指導に尽力されました。

大学行政においては、平成三年四月から平成六年三月まで鹿児島大学評議員、平成六年四月から平成八年三月まで鹿児島大学法文学部部長の任を務められました。

研究活動においては、社会政策分野では賃金論と生産力論、工業政策分野では科学技術論を中心に研究作業を行い、その研究成果は専門分野の研究者を越えて多くの研究者に影響を及ぼされました。また地域経済問題にも関心を寄せられ、奄美群島地区を始め、当該地域の経済発展について、実証的分析に取り組まれ、地域社会に大きな貢献をなさいました。

また学会における活動としては、社会政策学会においては、学会年報編集委員、日本地域経済学会においては、学会幹事として学会の発展に貢献されました。

常に真理探究の旗を掲げて邁進されてきた先生には、おそらく差し迫る大学の法人化、それに伴う学問の変容に深い危惧の念をお持ちであることでしょう。しかし先生の歩まれた研究一路の道そのものが私どもの指針となり引き継がれることと信じています。

今後ともますますのご健勝を祈念しますとともに、一層のご活躍をお祈りするしだいでです。

平成一五年三月

鹿児島大学法文学部法政策学科長 采女博文